

日時:2008年8月13日～2008年8月16日

山名:北アルプス

ルート名:滝谷ドーム北壁 北西カンテルート

形態:登攀

メンバー:久池井(豊)、久池井(七)

報告:久池井(豊)

12日夜、沢渡駐車場に向けて出発。交通量は普段より多く感じるが、渋滞はなく01:00に駐車場に着いて就寝。

13日、04:30に起きる。始発のバスに乗り込み、05:35に上高地に到着。すでに登山者でいっぱいである。観光客の人もパラパラといて、お店もやっている。6:00 眠い目をこすりながら歩き始める。明神館の前にて休憩。雲の中、てっぺんだけ顔をだしている明神岳をしばし眺める。その後、日頃のトレーニング不足がたたってか、横尾までの平坦な道のりなのに、なかなかスピードが上がらず、横尾を出て涸沢へのゆるやかな登りでさえ、ザックが肩に食い込む。かなりバテバテ。11:40 涸沢に到着。天気は晴れて、景色は最高。ここで長めの休憩をとり、涸沢ヒュッテでスペシャル行動食（ソフトクリーム＆コーラ）を購入して、糖分＆気合を疲れた体に注入。14:40 北穂のテント場に到着。小屋で受付を済ませ、水を購入してからテントを設営。明日に備えて早めに夕食を終えて就寝。

14日、昨夜は雨が降り、強い風が吹く。3:30に起床するももう一度寝ることに。6:00 やはり周りはガスで視界不良。昨日は、テント場から北穂の小屋が見えたのに、今日はとなりのテントがせいぜい見えるくらい。様子をうかがうも、追い討ちをかけるかのように雨が降り出す。その後、断続的に雨が降り、雨足も強くなって、しまいには雷も鳴り始めた。テントの外はプチ小川が出現し、チョロチョロと音を立て始め、テントの底から浸水してせっせと手ぬぐいで水を外に出す。迫さんからのメール情報（北穂では携帯が通じる）によると、明日の天気は曇り/晴れということで、明日に期待する。

15日、天気予報はハズレ。夜中に再び雨が降り、モチベーションが下がる。濃いガスで視界不良は相変わらず。天気の回復を期待するも、雨が降ってくる始末。9時過ぎに、滝谷は諦めて、奥穂高への縦走に切り替えて、撤収を始める。テントもしまって、パッキングを始めたが、七生がどうしても諦めきれず、北壁の取付確認だけでも、と言うので、一応、ロープと登攀具一式を持って、滝谷へ。ここで、勅使河原さんと鈴木さんパーティーに会う。しばし会話してお互いの健闘を祈って別れる。アプローチは、文字通り五里霧中で歩き回って、やっとこさ正規の踏み跡を見付けて、ドーム北壁の取付に到

着する。思った通り、右ルートも左ルートもぬれて、しづくが岩角から落ちている。しかし、天気はわずかだが回復しつつあり、人工なら登れるんじゃないかということで北西カンテルートを 12:30 に登り始める。

1P：豊リード。最初はフリーで右上してから、アブミで登る。慣れない人工のゆえ、てこずって時間がかかる。飛騨側から濃いガスがわいてきて、否が応でも登攀気分が高まってくる。40mほどで終了点に到着。七生も頑張って人工で登ってくる。時折吹く強い風にアブミが宙に舞う。

2P：七生リード。岩は一部乾いており、快適に登っていく。カムはいらないくらいで逆に邪魔になったようだ。14:00 豊、終了点に問題なく着く。

一般縦走路に出た頃に、ガスが晴れて太陽が顔を出す。空には大きな入道雲が見え、涸沢のテント村が見える。当初、穂高山荘のテント場に行って、勅使河原・鈴木パーティーに合流しようかと考えたが、明日の天候次第では目的のドーム中央稜を朝一で狙ってから下山してもいいかもと欲が出て、15:30 再び、同じ場所にテントを設営する。その後、夕立が降る。

16日、3:30 起床。夜半からかなり強い風が吹き続ける。見慣れた濃いガスが空を覆っている。振り出しに戻ったか。とりあえず、朝飯を終えて様子を見るが、依然として風が強い。5:30 ドーム中央稜の登攀は中止して、下山することに。涸沢につく頃には、天気は晴れて前穂高がきれいに見える。ありや～、これだったら登れたかなと後悔しつつも、まあ、こんなもんでしょうってことで自分を納得させる。途中、屏風をじっくり見上げながらたっぷり休憩して、13:10 上高地着。沢渡の駐車場にて勅使河原・鈴木パーティーと合流する。